

第32回 日本語スピーチ発表会

The 32nd Japanese Speech Presentation Event
By Winners of Overseas Japanese Speech Contests

愛と真心がアジアと日本をつなぐ

主催  一般社団法人 日本在外企業協会

共催  国際交流 日本アセアンセンター

後援  JAPAN FOUNDATION
国際交流基金

協力  AIESEC



日本語スピーチ発表会が2017年10月26日(木)、東京港区のアセアンホール(日本アセアンセンター)で開催された。

これは、日本在外企業協会(日外協)が「日本語スピーチ・コンテスト優秀者招聘事業」の一環として1986年から毎年実施しているもので、32回目となる。今回はカンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイから、各国のコンテストを勝ち抜いた7人がスピーチを披露した。



日外協・稲田佳昭専務理事

オープニングビデオの後、開会挨拶に立った日外協・稲田佳昭専務理事は、出席者に感謝を伝えるとともに、第1回目からの招へい者数が合計333人になったことを紹介。今回来日した7人も将来、各国と日本の架け橋となることに期待を寄せた。

発表会を共催する日本アセアンセンターの藤田正孝事務総長は、人材交流にさらに力を入れていきたいと述べ、今後もさらに日本語に磨きをかけてほしいと励ましのエールを送った。

続いて、昨年の参加者から応援のビデオメッセージ。「皆さん、ドキドキしていると思いますが、がんばって!」。学生として、社会人として全員



日本アセアンセンター
藤田正孝事務総長

が元気に活躍している。タイのモンナット・ラッサミーさんは10月から東京学芸大学に留学中、会場に駆けつけてくれた。

そして、いよいよスピーチの発表、7人が日本文化と出会ったきっかけや驚きと感動、将来の夢や希望について語った。

終了後の交流会では、ミャンマー大使館キンニラソエ公使参事官、マレーシア大使館イシャク参事官、カンボジア大使館タン一等書記官、フィリピン大使館サワジャン二等書記官、ラオス大使館シーサーン三等書記官、インドネシア大使館ザイン教育文化担当官ら来賓が挨拶した。

発表者スピーチは以下の内容で掲載しています。

発表順／スピーチタイトル
 氏名日本語表記〈ニックネーム〉(英語表記)
 出身国／年齢／職業・学校名など
 スピーチ内容
 *年齢、職業、学校名は発表会当時のもの

1. 地上最強の力

アルベルト〈アベ〉さん (Mr. ALBERT)

インドネシア／33歳／P.T. Hisamitsu Pharma
Indonesia

私の子どもの頃の夢は、将来、医者になることでした。でも、事情があって、その夢をあきらめることになりました。

その頃、日本語に興味をもっていた私は、大学で日本語を専攻することにしました。私が日本語に興味をもつようになった、きっかけ……、それはゲームです。私は、子どもの頃からゲームが大好きです。つまり、ゲーマーです。ゲーム・イズ・マイ・ライフです！

最初は英語版のゲームで遊んでいましたが、高校生の時、初めて日本語版のゲームを知って、遊び始めました。私のお気に入りのゲームは、『クロノ・クロス』というタイトルのゲームです。主人公が「地上最強の力」、すなわち、「愛」の力を使って、世界を平和にするという物語です。

日本語のゲームをやりながら、最初は日本語の文字は不思議だな～、と思いましたが、だんだん慣れてくると、とってもきれいだと感じるようになりました。もちろん、ある程度日本語が分からないと、ゲームの攻略ができません。だから私は、独学で日本語の勉強を始めました。勉強をすればするほど、やっぱり日本語は「面白いなあ～」と思いました。高校の3年間、毎日毎日、ゲームと日本語の勉強ばかりしていました。

そして、日本語だけでなく、それ以外の日本のことも知りたくなりました。だから、高校3年生で医者になることをあきらめ、大学で日本語を専攻しようと思ったのは、私にとって自然なことでした。

でも、周りの人たちからは「ええっ、日本語？卒業したら、就活つらくない？」とか「語学を

専門にしても将来会社で出世できないよ！」とか、イヤなことばかり言われました。私は母に相談しました。すると母は、「社会人になると毎日が忙しく、職場は戦場みたいだよ。だから、学生時代は好きなことを思う存分に勉強して楽しんだ方がいいよ」と言ってくれました。

その母の言葉を信じて日本語学科に入学しました。大学での4年間、最後まで一生懸命がんばって、無事大学を卒業することができました。大学を出て仕事を探し始めました。法学や経済を専攻した友人たちは、どんどん良い会社に就職していききました。私はなかなか仕事が見つかりません。仕方がないので、いくつかのアルバイトをしながら毎日を過ごしていました。それでも、大好きなゲームと日本語の勉強だけは毎日続けました。

大学を出て5年が過ぎた頃、やっと日系の会社に入社できました。本当にうれしくて、うれしくて、たまりませんでした。

私は、総務部に配属になりました。最初は事務用品購入とか、飲み水ストック補充とか、何でも屋のような仕事ばかりでした。しばらくすると、もっと重要な仕事をまかされるようになりました。例えば、日本人上司のビザの手配や、物流、品管・品証、生産管理等です。「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)教育」や「改善」についても、会社のデータや本、インターネットで必死に勉強しました。そして、毎週水曜日に30分時間「工場内総点検、一斉清掃」を実施したり、5S教育や指導を実施したりしました。また、日本人上司への報告も、もちろん日本語で作成しないといけないので、やっと勉強してきた日本語を活かすことができました。そして、仕事というのは、指示されたことだけをするのではなくて、自分の頭で考えて、会社にメリットがあることを実行することが大事だと分かりました。

最近よく感じるのは、「仕事には100点満点は



ない」ということです。学生時代のテストなら、一生懸命勉強すれば100点を取れるかもしれませんが。でも、どんな仕事にも完璧というのはいないと思います。また、仕事をしていると、1つの問題が解決しても、またすぐ次の問題や課題が出てきます。いくつもの報告書類の締め切りが迫って、頭がパニックになってしまうこともあります。でも、「仕事には100点満点はない」からこそ、毎日毎日、自分が成長できるようがんばり続けることが大切だと思います。

ゲームをきっかけに日本語に興味をもち、大学で日本語を専攻し、今の日本の会社で働けることに私は本当に感謝しています。日本語は私にとって「地上最強の力」です！

そんな感謝の気持ちをこめて、2年前から会社で日本語講座を始めました。毎週水曜日の就業時間後に1時間ぐらい、会社の仲間たちにボランティアで日本語を教えています。2年前に始めた頃は、4～5人の参加者でしたが、今ではいろいろな部署から約30人が参加して日本語を勉強しています。私の日本語のレベルは、まだまだですが、それでも自分が知っていることを仲間のみんなに伝えたいと思っています。

皆さんの中にも、大学や学校で日本語を勉強している方が多くいらっしゃると思います。日本語はやっぱり難しいけど、あきらめずに粘り強く勉強していけば、きっと道はひらけると思います。

私の今の目標は、日本の本場で働くことです。これから、もっともっと仕事をがんばって、もっともっと日本語を勉強して、その目標を必ず達成したいと思っています。 ■

2. ただ前へ、歩いていこう

クインシアン・マリ・ヤップ・タンポ(ヤンヤン)さん (Ms. Quincyanne Mari Yap Tampo)
フィリピン / 23歳 / R&D エンジニア

「意志のあるところに道は開ける」、リンカーンの有名な言葉です。

皆さんは、どんなに難しい道でも歩き続ける意志があればゴールにたどりつけないと思いますか？ 私はそう思います。「どうしてこの言葉を信じて

いるのか？」それを今日、皆さんにお話しします。

皆さん、『ピリギャル』という映画を知っていますか？ この映画は、学年でピリの女の子が一生懸命勉強し、慶応大学に合格した話です。私はリンカーンの言葉を、この映画で知りました。『ピリギャル』を見て、私の心に残ったのは、「自分を信じて目標をもち、一生懸命がんばれば、どんな困難でもクリアできる」ということです。

私には、今の会社に入ってから大きなチャレンジが3つありました。1つ目はPhiINITSというソフトエンジニアの試験です。一生懸命勉強しましたが、模擬試験では合格点を出すことができませんでした。友達とたくさん勉強しましたが、最後の模擬試験にも失敗して、私の心には不安しかありませんでした。でも、絶対合格すると信じて、あきらめずに最後まで勉強しました。すると、試験の結果はなんと「合格！」。やっぱりあきらめないで、一生懸命勉強したかいがありました。自信が生まれて残りの2つのチャレンジ、日本語能力試験の4級と3級にも合格しました。

確かに、リンカーンが言った通り、意志のあるところに道は開ける。模擬試験の得点がどれほど悪くても「合格する」という目標を持ち続けたので、この大きな難関をクリアできたのだと思います。

Hey! Say! JUMPの『ただ前へ』という曲に、♪目の前をふさいでいるのは壁じゃなくて扉なんだ。おそれないで、焦らないで、君だけの明日をその手をつかむのさ♪ このフレーズは、私にとって、目の前に壁があっても、「絶対にできるよ」と私の背中を押してくれる曲なんです。この曲のおかげで、壁に負けることなく意志を貫くことができました。

きっとこれから難関がたくさんあるかもしれませんが、次へ、また次へ意志をもって一步を踏み出しましょう、ただ前へ。自分の夢のために。



皆さんも夢がありますよね？

私の夢は日本に行くことです。素敵なさくらを見たり、日本人の友達をつくったり、日本の文化を習ったりしたいです。その夢のために、これからも、つらくても仕事と日本語の勉強をがんばっていきたいと思います。

皆さんも、どんな夢でも、その夢はまだ遠くても、未来がまだ見えなくても、あきらめないで、どんなちっぽけな一歩でもいい、いっしょに前に進みましょう。 ■

3. 金色の田んぼと夢の職業

ポー・スूपスントーン〈プロイ〉さん

(Ms. Bow Suepsunthon)

タイ / 20 歳 / 学生

皆さんは「イーサーン地方」ということばを知っていますか。イーサーン地方とはタイ東北部のことです。田んぼや畑がたくさんあります。イーサー

ンの人の多くは農業をしています。そして、牛や水牛やニワトリを飼っています。私はイーサーン地方で育ちました。

私の家族は祖母と父と母と妹です。昔から稲作をしています。私は子どものころ、学校から帰ってきて、田植えを手伝いました。裸足で苗を田んぼに植えました。10月になると、苗は緑色になって、そして、金色になります。とてもきれいです。稲が金色になると、稲刈りが始まります。昔は機械がなかったので、鎌で稲を刈りました。ずっとかがんでいるので、腰が痛くなりました。

今は苗は植えません。種をまくだけです。稲刈りは機械を使います。でも、昔より肥料が高くなって、米の値段が安くなりました。だから、農家の収入が減りました。農業をやめて、バンコクへ行って働く人もいます。でも、生活が苦しくても、私の家族は稲作を続けています。「田んぼがあれば、お金がなくても生きていける」と父は言います。

私の家はナスやトマトやキュウリなどの野菜も

異なる個性が同じ思いで

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン

藤井はるかさん

(青山学院大学 文学部 英米文学科3年)

アイセック・ジャパンは、126の国と地域で活動する学生組織 AIESEC の日本支部として、海外インターンシップ事業を運営する学生団体です。1962年に設立され、現在では国内25の大学委員会が活動しています。私は対外担当として、日ごろは企業やNPOなど外部のパートナーの皆さまと共同で様々なイベントの企画・運営などを行っています。

今回、ASEANの同世代の友人たちとの交流を通して、特に印象に残っていることが2つあります。

ひとつは来日した7人の皆さんが、国や言語、文化などのバックグラウンドは全く異なるのに、たった1つの共通点とも言える日本語だけでお互いにコミュニケーションしていたことです。雑談だけではなく、異文化について学び合い、将来は日本語を使える職業をしたいといった夢まで語り合っている、日本人として思わずうれしくなりました。

もうひとつは、最初の頃はおとなしく遠慮がちだった皆さんが、時間がたつにつれみるみる打ち解けていったことです。単に仲が良いだけではありません。日本語ス



日本語スピーチ発表会の後の交流会で（左から2人目が藤井さん）

ピーチ発表会では、7人全員で力を合わせて成功させようとの熱意があふれていました。みんなが同じ思いでまとまったからこそ、発表会があれだけ盛り上がったのだと感じています。

私自身、将来は様々なバックグラウンドをもつ人々の中に身を置きたいと願っています。異なる文化が集まる中こそ、全く新しいアイデアや豊かな価値が生まれると信じるからです。そのために、まずは日本についてしっかり語れるだけの教養を、学生のうちに身に付けたいと勉強しているところです。世界中どこへ出て行っても「日本から来た藤井はるかです」と堂々と言えるような自分を目指しています。(談) ■



つくっています。バナナやマンゴーなどの果物の木もあります。野菜や果物を植えると、買わなくてもいいからです。そして、牛も飼っています。牛は私の家の「貯金」です。お金がある時、売ることができます。父は毎朝、早く起きて草を取りに行きます。その草が牛のえさになります。これがイースターの人の自給自足の生活です。

小学生の時から高校生の時まで、私は家の近くの小さい学校へ通いました。塾へ行ったことはありません。「子どもを大学へ行かせるお金があるの？」とある人が両親に聞いたことがあります。この言葉はひどい言葉です。でも、私の両親はなんとか私や妹を育てることができます。収入は少なくても、みんな幸せです。

今、私は大学で日本語を勉強しています。私は日本が好きだし、私の両親は、私に教師になってほしいと思っているからです。「教育があれば、生活に困らない」と父と母は言います。多くのイースターの人は、公務員や教師や警察官などが良い仕事だと思っています。

でも、私にはやりたいことがあります。それは稲作です。お米は1年に一度しかとれませんが、自分で育てた、大切な稲が大きくなって、お米になって、人の食生活を支えています。だから、稲作は素晴らしい仕事だと思います。

農民は身分が低い、と言う人もいます。でも、私は農業に誇りをもっています。金色の田んぼの中で働きたいです。農業は私の夢の職業です。■

4. 真心

キン・サバー・シン(キン)さん

(Ms. Khin Sabai Sint)

ミャンマー / 23歳 / 学生

「真心」というのは真の心、誠意、つまり、偽りや飾りのない、真剣に尽くす心です。他人のた

めに尽くそうという純粋な気持ちです。

実は、私はこの前1年間、研修生としてヤンゴン総合病院で働きました。それは卒業するため必要な研修でした。そこで24時間働いたこともありました。いつも長い時間働いていたので疲れてきました。研修期間がもうすぐ終わるという時には本当に疲れていました。心がないロボットみたいに働いて、毎日がつまらなくなってきました。もうやめたいなぁと何回も思いました。

そんな時、テレビで日本のドラマを見ました。そのドラマから私の仕事についての考え方を教えてくれた言葉、「真心」を見つけたのです。ドラマの名前は『天皇の料理番』です。

ドラマの中で主人公は料理人になるため、ある料理屋で鍋洗いをして働きました。その時出会った先生から主人公は真心のことを学んだのです。先生はいつも細かいことまで気をつけて料理をつくっていました。それはどうしてなのか聞くと、先生は「料理は真心だ」と答えました。「技術は追いつかないこともある。素材は望みどおりにいかないこともある。けど、真心だけはいつでも最高のものを出すことができる」と言いました。

その話を聞いて主人公は、真心を腹に据えて仕事場を見ることにしました。みんなの作業を見て何をやったら喜ばれるか考えて働きました。真心をもって一生懸命がんばり、最後には天皇の料理番になりました。

それを見て、真心は料理をする時だけではなく、ほかの場合にも使えると思いました。そこで、私もドラマの主人公みたいに真心をもって働いてみました。どうすれば患者さんや先輩たちに喜ばれるか考えて働きました。すると、仕事場が前と違って見えるようになりました。



ミャンマーには「真心のお医者さんの親切な笑顔を見ることだけで半分の方が治せる」という格言があります。ですから、私も忙しい時や疲れた時にもできるだけ親切な顔

を見せることにしました。前より患者さんと話したり、もっと優しくしてあげたりしました。先輩たちにもいろいろ手伝ってあげました。「私は今仕事をしている」と思わずに、「患者さんのためにやっている、患者さんが早く元気になったら、患者さんも私も、みんなも幸せになる」と思って働きました。

そうしたら、仕事がどんどん面白くなってきました。疲れたけど、やっと幸せな気持ちで研修期間を終えることができました。ですから、これからもずっと真心を持って仕事をしていきたいと思っています。

他人のために尽くそうという純粋な気持ちはとても素敵です。真心でやればどんな仕事でも楽しくできますから、皆さんも、真心を尽くしてみてください。きっと幸せな気持ちになると思えます。 ■

5. 私とボランティアの仕事

ラッタソン・ボンマボン〈クン〉さん

(Mr. Latthasone Phommavong)

ラオス／21歳／学生

「ボランティア」って、みんなは知っていますよね。でも、人によって、きっと考えが違うと思います。「ボランティアとして、ほかの人を手伝ったら、自分が幸せになる」と言う人がいます。「お金をもらわないし、何のためか、時間ももったいない」と言う人もいます。

2年前、私はボランティアの仕事に興味がなく、ボランティアになったら、アニメを見る時間が少なくなるし、大変そうだし、つまらなそうだと思っていました。しかし、日本語を2年勉強して、日本人がラオスでボランティアの仕事をやっていることを知りました。

その後、私は先生に簡単なボランティアの仕事を紹介されました。日本から来た歯医者さんが話す日本語をラオス語に通訳することです。先生は「小学生と活動ができるし、日本語を使ういいチャンスだ」と言いました。それを聞いて、私はボランティアになりたいと思い始めました。

ついに、私は初めてボランティアの仕事をし

ました。子どもたちといろいろなことを話し、いっしょに昼ご飯を食べて活動しました。初めてのボランティアは、暑くて疲れました。でも、子どもたちはいつも僕に笑顔をくれました。また、ほかのボランティアと仲良くなりました。

今回、ボランティアになるのは、初めてでした。大変だけど、ほかの人の笑顔を見られて、よかったです。それに、いつもお礼をされました。僕の考えが変わりました。ボランティアの仕事はつまらないことじゃないです。したことがないことができて、会ったことがない人と話せました。ボランティアの仕事は、仕事だけではなく、楽しいことや人とのつながりなども入っています。みんなが社会にできることを手伝ってほしいです。ボランティアになるのは良い方法のひとつだと思います。 ■



6. 音楽の贈り物

ヌルファハニム・アズリ 〈ハニム〉さん

(Ms. Nurfarhanim binti Azli)

マレーシア／19歳／学生

私は日本の歌が大好きです。とくに、嵐、古川本舗、ゆず、RADWIMPSが好きです。どうして日本の歌や音楽が好きなのでしょう。私はその歌詞の背後のメッセージに興味があります。私が好きですべての歌には、愛、友情と勇気についてのメッセージがあります。独自の物語の中からメッセージを理解する必要があります。

中でも私が興味をもったのは『レモン哀歌』という歌です。はじめてその歌を聞いて、私は全然分かりませんでした。私はその歌詞について調べました。それは高村光太郎の有名な詩でした。『智恵子抄』という詩集の中の詩です。智恵子は高村光太郎の奥さんです。

智恵子は精神の病気になり、1932年に自殺を試みました。光太郎は彼女の世話をするのが大変



になりました。智恵子は1935年に入院し、1938年に肺炎で亡くなりました。『レモン哀歌』の中には、レモンのすっぱい味で、智恵子は再びもとの智恵子となりました。彼女の人生の最後の瞬間に、彼女は再びもとの

智恵子となりました、とあります。

もうひとつ、私の好きな高村光太郎の詩は『智恵子抄』の中の『梅酒』です。智恵子が光太郎のために作ってくれた梅酒を智恵子の死後、10年後に飲みます。光太郎が智恵子の死を受け入れるのがどんなに大変かがよく分かります。この詩によって、『レモン哀歌』の悲しみに孤独を理解することができるようになりました。高村光太郎の詩には深い悲しみがあり、その悲しみは個人的なもので、そして、人間的なものです。深い愛がありますから、深い悲しみがありません。

また、高村光太郎の詩には、昔のひらがなの使い方があり、ひらがなと漢字の使い方もきれいです。私は日本へ行って、日本の詩や歌をもっと勉強したいです。

「嵐」の『5×10』（ファイブパイテン）も私のお気に入りです。この曲は、彼らの10周年の歌です。嵐のメンバーのためにつくった歌です。友情と勇気の歌です。10年間、大変なこともありましたが、いっしょにがんばってきました。嵐の歌は励ましのメッセージを伝えます。私たちが困難に直面しているときに、前進するための勇気を与えてくれます。「嵐ならできる」という考えが私たちにプラスのエネルギーと精神を与えてくれます。

この曲を聞いた後、私は嵐のメンバーに興味をもちました。そして、彼らのテレビ番組を見ました。その番組を通して、私は日本について多くのことを学びました。日本食、日本のいろいろな場所、そこの文化や生活について学びました。また、多くの日本人アーティスト、エンターテイナーを紹介してくれました。私は本当にわくわくして、

日本に行き、すべてのものを試してみたくになりました。

日本の歌を聞いて、私の世界は広がりました。もっと日本についていろいろと学びたいと思っています。そして、これからも日本の歌を聞いて、新しい愛・友情と勇気のメッセージ、そして、別の物語から新しいメッセージを見つけたいと思います。

7. 愛をみせる瞳

ディーリ・チャンソムナン〈チモン〉さん
(Mr. Dily Chansamng)
カンボジア / 20歳 / 学生

悲しむたびにいつも広い空を見たり、いろいろなことを考えたりします。特に人間に関するいくつかの疑問が私の頭に浮かんできました。その中で最も不思議だと思うのは、人間は2つの耳と目があるのに、なぜ口は1つしかないのだろうかということです。その答えが知りたくて、人間について書かれた本や人体に関する生物学の本などで答えを探しましたが、答えはさっぱり分かりませんでした。しかし、偶然に母が聞いていたお坊さんの話を通して、その答えを見つけました。人間の口が1つだけなのは、仏様が人間に話すことより聞くことと見ることを大切にしてもらいたからです。

その話を聞いた後で、これからは話すことより聞くことと見ることを大切にしようと自分に言い聞かせました。そのとおりにやってみると、見ることは聞くことより大切であることが分かりました。なぜなら、私たちが毎日聞いていることは、全部が本当のことだと言えないからです。しかし、目で見えることは、相手をよく見ることで、相手の心が伝わってくることもあると思うからです。かつて、目で相手の気持ちをよく理解できたのに、それに答えることができなかったため、後悔したことがひとつありました。これから、そのお話をします。

その人は私を優しく育ててくれた人で、私のために何でもしてくれて、だれよりも私を理解してくれた私の祖母です。私にとって祖母は、温かく

本当の母のように感じさせてくれました。

9年間、祖母と過ごして一番不思議だと思うのは、食事の度に私の顔を見ながら、いつもニコニコ笑っていることでした。そのことについて、私はいつも祖母になぜなのかと質問しましたが、答えてはくれませんでした。結局、祖母が毎回してくれたことを自分の目を通して、判断することになりました。

それは多分、祖母は私のことが大好きなのだということです。私は「おばあちゃん、私もおばあちゃんが大好きだよ」と言いたい気持ちになりました。しかし、その時はなんだかそんな言葉は必要ないという気がして言いませんでした。そして、12歳の時に両親と暮らすようになりました。

その後、祖母と離れて8年間、親と住んでいます。親は仕事だけに集中して、あまり私をかまわず、私に何でも自分でやらせました。そうすることにより、親は私に独立心をもたせましたが、私は親に対しての愛情をあまり感じるできませんでした。

そんな時、私を優しく育ててくれた祖母を思い出して、祖母の住む家に帰りたくくなりました。彼女に「おばあちゃんが好きだよ」とすぐ言いに行きたくなりました。しかし、大学で大事な試験を

受けなければいけないので、祖母の家には行きませんでした。あの夜に行かなかったせいで、祖母に「好きだよ」という言葉を使う機会がなくなってしまいました。

その夜、祖母の手も足も冷たくなり、目で私の顔を見ることができなくなりました。これがわが人生で一番後悔していることです。祖母は私に、自分の愛を目で表していました。しかし、私には祖母のように、目で表すことも言葉でさえ表すこともできませんでした。

もちろん大切なことを聞くために聞くことも大切ですし、大切な気持ちを伝えるために話すことも大切です。しかし、見るということは、相手に気持ちを伝えることもできますし、相手の気持ちを知ることもできるのです。

最後に、私は皆さんには皆さんのもっている目を最大限に使って、相手をよく見て、相手の気持ちを感じとるようにしてほしいと思っています。 ■



講評

馬越恵美子 先生
(桜美林大学 教授)



馬越先生の発表者一人ひとりへのユーモアと優しさにあふれる講評はすでに本発表会の名物。

長年、日本語スピーチ発表会に出させていただいて、年々、講評するのが難しくなってきたと感じています。最初の頃は、発音とか抑揚などテクニカルなことについてアドバイスできたのですが、最近は皆さん言うことがなくて困るほど上手です。

アベさんはとても自然で、しかも堂々としていました。ヤンヤンさん、「ただ前へ」心に響くメッセージですね。ブローイさんは、金色の田んぼの情景が目に見えかかってくるようでした。キンさん、相手に尽くす真心と笑顔の大

切さを教えてくださいました。クンさんのボランティアの話、とても共鳴できます。ハニムさん、まさに「愛は国境を越える」。チモンさんのこと、きっとどこかでおばあちゃんが見てくれていると思います。

どのスピーチも夢があって、力強さがあります。共感するものばかりでした。全部に共通するテーマは「愛と真心」だと感じました。

真心とは、ひとつのことをずっと継続すること。このスピーチ発表会が末永く続くことを願っています。 ■

ラッシュアワーを いきなり体験



日外協 業務部主幹 林 徹
(事務局担当)

今回は、ASEAN 7カ国から7人のメンバーが来日。2017年10月22～29日の1週間に企業訪問、日本語講座、日本文化体験、日帰り観光、スピーチ発表会とハードスケジュールを終え、全員無事に母国に戻った。彼らの「日本体験」の反応を含め、1週間をご紹介します。

10月22日(日)
1日目

日本到着

来日メンバーのうちの何人かは日本に知人がおり、その方々に都内を案内してもらったり、いっしょに映画を観に行ったり。他のメンバーも日本語の不自由はないので、心配無用。事務局(当方)としてはホテル近くのSHOP紹介など準備をしていたが、全く問題なし。それにしても、みんな仲良くなるのが早い。

10月23日(月)
2日目

企業訪問

スケジュールの都合で午前中に味の素川崎工場を見学。月曜の朝8時ということで、ラッシュアワーをいきなり体験。電車が到着した瞬間、「人がいっぱい!」。チモンさんの声にまわりの乗客がいつせいに注目。密集する車内で、目のやり場に困ったチモンさんだった。味の素工場では「うまみ体験」や「鰹節けずり」に興味深く受講。ハニムさんは技術系らしく「ケミカルエンジニアの勉強ができた」との感想。クンさん「アジパンダかわいいです」。



日外協に戻り、協会職員との昼食会。サンドイッチをつまみながらの短時間の交流だったが、打ち解けることができた。

10月24日(火)
3日目

日本語講座&企業訪問

この日は朝から日本語講座。担当した長谷川敦先生は、日本語を学習する過程で突き当たる「異文化理解」にまで視野を広げ、ASEANにおける日本企業の事例なども使いながら丁寧に講義。また最後には文化的な違いが色濃く表れる「ことわざ」についても楽しく教わり、みんないろいろな気づきがあった様子。「石の上にも三年」が一番印象に残ったアベさん、「諦めずに頑張っていけば、きっとできる!」と自分に言い聞かせている。



午後は企業訪問。凸版印刷の「印刷博物館」では各自の名前を一文字一文字選んで活版印刷しておりを作成。その後 VRシアターで東大寺の大仏をバーチャル体験、その場にいるような大迫力に感激。



旭硝子の「AGC Studio」では、ガラスだけではなく、未来の街づくり・空間づくりに使われる建築材料や生活シーンモデルを見て、みんな思わず「こんなところに住んでみたい」。

10月25日(水)

4日目

富士山

日本の象徴、富士山に。しかし、当日は雨と雲で山は見え、でも全員ポジティブ。初めての紅葉や河口湖温泉街の湯気に感激してくれたようす(日本の「わび」「さび」に触れた瞬間かもしれない)。ヤンヤンさんは「富士山が見えなくてもだいじょうぶです」。ちなみに、富士山五合目の温度は2度(体感温度は氷点下と推量)、彼らの感想は全員「寒かった〜」。帰路ではぶどう狩りと信玄餅詰め放題を体験。食べ切らなくてはならないことを知らずにいっぱいぶどうをもいでしまい、苦しみながらみんなで協力して食べた。



10月26日(木)

5日目

文化交流&スピーチ発表会

アイセック・ジャパン藤井はるかさんの案内で青山学院大学キャンパスに行き、日本文化・神道について歴史や参拝作法の講義を受けた後、近くの金王八幡宮へ。「あこがれの街」渋谷に神社があるなんて、みんな興奮気味。それでも参拝の時は真剣そのもの、何をお願いしたのだろう。



午後からはいよいよ「日本語スピーチ発表会」。会場のアセアンホールに入る前に、神社へ行ったならお寺にもということで芝の増上寺へ。この日は快晴、本堂と東京タワーをバックに記念撮影。そして会場へ。「腹が減っては戦ができぬ」、日本語講座で教わったことわざ「花より団子」の団子を差し入れ。これで少しは緊張がほぐれるだろうか。

午後4時の開会を目指し、大使館員・企業・団体など続々と参加者が集まり始める……。

差し入れのお団子を食べてがんばれ!!

各国大使館等からの応援もあり、本番は皆バッチリ。交流会も国際色豊かに盛り上がった。



10月27日(金)

6日目

東京ディズニーランド

発表会での大役を果たし終えたこの日は、いよいよディズニーランド。

プロイさん「わくわくするし、とても幸せ」。みんな大いに楽しんで!



10月28日(土)

7日目

自由行動

自由行動、最終日を満喫。キンさんは「1人で電車に乗って鎌倉まで問題なく行けました」とラッシュアワー体験の効果あり。温泉好きのハニムさんは、お台場の「大江戸温泉物語」を満喫。みんなたくましい限り。

10月29日(日)

8日目

帰国

早朝に出発、各自母国へ。またいつか会える日を楽しみにしています。

最後に、日外協の「草の根外交」にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。■

※本事業の詳細・スピーチ動画は日外協 WEB サイト参照。
サイトトップページ>「日外協の活動」>「国際交流活動」

<https://www.joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest>